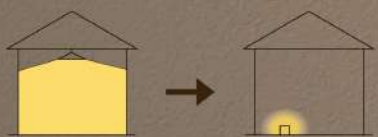


光の折箱



「あえて、暗く。」

この照明は光を包み、抑え、光と影のコントラストが生み出す陰翳の美を味わうことを目的としている。現代の住空間では、ひとつのシーリングライトによって均等に照らされ光の表情や奥行きを失い、メリハリの無い空間になってしまっているように感じる。そんな現代にこそ、光を道具ではなく、芸術のように見つめ感じる時間を提案したい。



「和紙・墨・箔」

強制紙の制作工程から着想を得て、こんにゃく糊をつかい、揉みの工程を踏まずに強度を保つ独自の方法を生み出した。墨の滲みやかすれの表情を研究してパターンを施し、さらに日本画技法である箔の平押しを用いることで光が当たった瞬間に生まれる繊細な輝きを表現している。



「折り、重ね、組む。」

この照明は、折り、重ね、組むことで完成する。和紙と墨が重なることで、新たな表情が立ち上がる。重なりによって光を通す強度は変化する。また、平面でバラバラに見えていた箔は、立体になることで紙の重なりの下を通り、つながっていく。

